

全国協議会 ニュース

2014年7月1日発行 第265号

発行所
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク
推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4
KTビル3F
TEL.(03)5823-6360
FAX.(03)5823-6365
発行責任者:野村正満
http://www.marrow.or.jp/
E-mail:office@marrow.or.jp

郵便振替口座
00150-4-15754
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

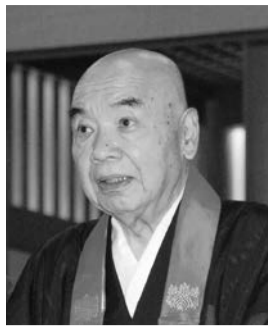
2014全国骨髄バンクボランティアの集いin醍醐寺

国宝・重文に見守られ

「2014全国骨髄バンクボランティアの集いin醍醐寺」が6月21日(土)、京都市伏見区の総本山醍醐寺・霊宝館で開催されました。全国骨髄バンク推進連絡協議会にとって「年に一度の大イベント」ですが、会場が世界文化遺産に登録された古刹とあって、全国各地のボランティアをはじめ約200人が集まりました。引き続き22日(日)には全国協議会の14年度通常総会と第1回代表者会議が醍醐寺・修証殿で開かれました。21日と22日にそれぞれ1時間を充てて行われた「特別ツアー」には計70人の参加があり、総本山の醍醐寺を存分に味わう2日間となりました。(医療講演要旨と総会・代表者会議の記事は2面に)

式典・記念イベント…盛りだくさん

集い



主催者を代表して挨拶する仲田会長

「ボランティアの集いin醍醐寺」は、第一部の記念式典でまず天に召された方々のご冥福をお祈りする声明で始まり、醍醐寺座主でもある仲田順和会長の主催者挨拶、そして来賓の方々のお言葉を頂戴

し、地元ボランティア4団体の紹介、骨髄バンク推進に貢献された4団体1個人に感謝状を贈呈いたしました。仲田会長は挨拶の中で「法制化によって関係機関が戸惑いを見せるなかで、いま行うべきなのは、骨髄バンク事業が患者さんにとって使い勝手よく実施されるような体制作りです」と強調しました。感謝状を贈呈された各団体を代表して、東京マリローンロータリー・クラブの仲田順英様から、「今後も変わらず闘病中の患者さんを支援しま

す」という心強いご挨拶をいただきました。

第二部の記念イベントは、ソプラノ歌手・永野歌織さんの歌声(ピアノ・栗原日菜子さん)でオープニングが始まり、近藤忠一先生(京都大学医学部附属病院血液腫瘍内科)と谷口修一先生(東京・虎の門病院血液内科)の医療講演につづき、サッカーを

正満理事長のお礼の挨拶で幕を閉じました。



プログラム表紙の「泉」は仲田会長の揮毫。「生命は湧き出る泉の如く、さらに人生のオアシスたれ」の意味がこめられています



声明を終えて薬師如来像に一礼する僧侶

集い参加者の声

◆命つなげる勇気に感動

造血細胞移植に関する法律施行後初めての全国大会。会長をはじめ来賓の挨拶にも、新しい私たちの活動の方向性を示唆するものが見られました。記念イベントでは永野さんのソプラノ独唱が厳かな中にも楽しい雰囲気、医療講演ではiPS細胞の将来性やさい帯血治療の実績など興味深く聞くことができました。

特に水野さんご夫婦登場のトークショーは、病気を乗り越えた患者さんの精子保存による新しい命、ご本人と妊娠中の子を含めた2つの命をつなげていくことの勇気に感動させられました。夕方は大盛り上がり懇親会、お坊さんの接待に驚き、国宝観覧ツアーもお坊さんの熱い解説に感動、感謝の一日でした。

(千葉骨髄バンク推進連絡会・西島隆史)

◆生きて京都に舞い戻る

今回初めて参加した全国大会。昨秋に初めて参加した財団の全国大会とは異なり、和やかな雰囲気で行進していききました。

ボランティアの全国規模でのふれあいを通じて、完治までの5年の道のりが一気に縮まったように感じました。夜の懇親会では、私が目標にしている東京マラソン移植者の部の完走者の方ともお話ができファイトが湧きました。

最後に私事ではありますが、大会の前月に骨髄バンクからの移植後3年を迎えました。闘病中に就職活動中だった息子は京都に下宿していたこともあり、再び自ラクルマを運転して京都に行けるまでに回復できたことを、家族全員で感謝しています。

(あいち骨髄バンクを支援する会・中山武彦)

◆めざましい医学の発展

さい帯血からの移植など医学などのめざましい発展によって多くの命が助かっているのですね。命は助かっても、それからの人生もなかなか厳しい……でも大谷さんが指摘されたように「命が助かっただけでも……」という世間の声があるのも事実。

幸せな部分が強調された会でしたが、そんな部分も取り上げら

れたらいろんな声が聞かれたのかな? そんなことを思いました。(岐阜骨髄献血希望者を募る会・水谷紀子)

◆可能性を最大限に発揮

参加する度に、勇気をもらいましたし、患者さんも、ドナーさんも、あらゆる可能性を最大に発揮して、挑戦している感じがうかがえました。今回の醍醐寺の様々な国宝も、たくさん見せていただき、ラッキーで、立食パーティーでは、さらに最高に得した気分になりました。関係者皆様の温かいおもてなしを頂戴しました。ありがとうございました。

(岐阜骨髄献血希望者を募る会・関節子)

◆歴史感じ心やすらぐ時間

2014年の京都醍醐寺のつどいに参加させていただき、久しぶりに皆様のお顔を拝見し懐かしかったです。また、醍醐寺の拝観は、いつも忙しんでいる生活の中で、歴史を感じながら心安らぐ時間でした。

総会・講演・集いはとてもスムーズに進行し、関係者の方々のご尽力と思います。

iPS細胞の講演はとても興味のあるものでした。このような時間をもてましたことに感謝いたします。(姫路地区骨髄バンク推進センター・濱田恵子)

◆変わることはない熱意

飛行機が嫌いな私は、なかなか全国の会議に参加できていませんでしたが、今回、実に久しぶりに参加しました。

10年ぶり、15年ぶりにお会いする顔、顔……。熱意も変わることなく、すごいですねえ。そして新しく知り合えた方。鹿児島も負けていられないと、とっても刺激になりました。

ドナーをいかにして増やすか。献血ルームへの説明員派遣、献血車への同行説明、自治体のドナー休暇制度……。鹿児島でもできることが山ほどある。その前に、ボランティアを増やすこと。そんなことも自覚できました。

日赤管理課長も、みんなの前で話されたので、なお一層奮闘いただけるでしょう。ありがとうございました。(かごしま骨髄バンク推進連絡会・向原祥隆)



地元ボランティア紹介(左から京都骨髄ドナーを募る会、なかよし会、献血と骨髄バンクの和を広げる会、きりんの会)



感謝状贈呈の方々(左からイオンモール京都五条店、JR京都駅、日本パプテス京都教会、東京マリロータリー・クラブ)



第3部の懇親会では、会場整理などを手伝ってくれたYIC京都専門学校生も、全国のボランティアと交流



参加者にお礼の挨拶をする野村理事長

京都骨髄ドナーを募る会、きりんの会(舞鶴骨髄バンクを推進する会)、NPO法人献血と骨髄バンクの和を広げる会、なかよし会

【来賓の方々】
厚生労働省移植医療対策推進室・菊田高章室長補佐、京都

イオンモール京都五条店、加藤修、JR京都駅、東京マリロータリー・クラブ、日本パプテス京都教会【地元ボランティア】(敬称略)

子&小澤洋介さんによるコンサートが行われ、最後に野村

正満理事長のお礼の挨拶で幕を閉じました。

第3部は、会場を修証殿に移してのレセプションです。降雨が予想されたため会場を

校の京都中央学院生も特別参加しました。

【感謝状贈呈の方々】(敬称略)

動をして患者サポート活動と大谷貴子顧問が「新たな命を二つ授かりました」と題し、白血病とどう接してい

た。エンディングは、三戸素子&小澤洋介さんによるコンサートが行われ、最後に野村

奥まった所に国宝の薬師三尊像などが安置され、過去に例のない荘厳な雰囲気になりました。

移したのですが、100畳敷きの畳の上に並べられた料理や飲み物を囲み、全国から集まった加盟団体などが旧交を温めました。会場には、霊宝館での式典の受付や会場整理などを手伝ってくれた専門学

府・山内修一副知事、京都市・藤田裕之副市長、日本赤十字社・西本至血液事業本部長、日本骨髄バンク・齋藤英彦理事長、世界造血細胞移植ネットワーク・小寺良尚会長



来賓のトークに挨拶する厚労省の菊田室長補佐



来賓の方々(左から山内副知事、藤田副市長、西本本部長、齋藤理事長、小寺会長)



支援コンサートで歌声を披露するソプラノ歌手の永野さん。右が栗原さん



水野さんとトークを繰り広げる大谷さんと、出産間近の水野夫人



自ら編曲したベートーベン「第九」も披露した三戸素子&小澤洋介さん

総会で全5議案を承認

総会

14年度通常総会は、加盟団体34団体のうち24団体(委任状4団体)の出席により開催されました。初めに野村正満理事長の挨拶があり、議長には神戸骨髓献血の和を広げる会の名川和志さんを選任、議案審議に入りました。

まず、理事会からの13年度事業報告・決算報告に続き、陽田秀夫監事から監査報告がありました。次に14年度事業計画が提案され、来年度の設立25周年記念行事準備やWBMT学術集会(南アフリカ)への参加医師派遣にマイレージを提供することなどが説明されました。いずれも出席者全員の賛成で可決されました。

出席者からは、理事会に対して①全国協議会ニュースを患者さんに役立つ開かれた内容にしてほしい②日赤との連携を深めてほしい③日赤との意見が寄せられました。

最後に伊戸川啓三監事の辞任に伴い、一樂邦彦さん(弁護士)の就任が審議され、可決されました。

代表者会議

通常総会に続き、代表者会議は各加盟団体の報告から始まり、各地域における活動報告やボランティアの減少・高齢化、登録会における日赤との連携の重要性、ド

代表者会議では3氏の話も聞く

ナリ給付制度を全国に広げるためには全国協議会の働きかけが大切であるなどの要望も

寄せられました。

講演会では、厚生労働省移植医療政策推進室の泉潤一室長による「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」施行元年の施策についての説明や、日本赤十字社・造血幹細胞管理課の田中秀則課長からは「法に基づく支援機関としての役割について話を聞きました。」



座敷が会場となった代表者会議



厚労省の泉室長 日赤の田中課長 WBMTの小寺会長

最後にWBMTの小寺良尚会長より全国協議会とパートナーシップをどう進めていくかについての解説をしていただきました。

なお、第2回代表者会議は日本骨髓バンクの全国大会(9月13日・土)福島市)の翌14日(日)を予定しています。



総会終了後の各団体代表と協議会役員

各地のたより

8時間耐久レースに自転車乗りが大集結

各々のたよりを写真を添えてお寄せください。

三重県鈴鹿市

なら骨髓バンクの会では、5月17日(土)・18日(日)開催の自転車の祭典「鈴鹿エネデュロ」に、昨年引き続きPR部隊として参加してきました。



味での再生医療であり、さい帯血とiPS細胞医療による再生医療の進歩は血液疾患医療に新たな進展をもたらすことが期待される講演会でした。(講演の詳細は次号に)

医療講演の要旨

造血細胞移植の最新事情

谷口修一先生(国家公務員共済組合連合会虎の門病院血液内科)

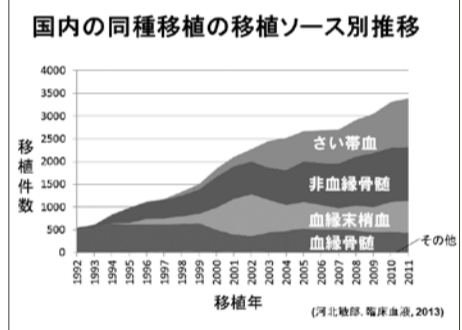


2000年ごろから、さい帯血移植が登場し、日本では90%以上の患者さんに適切なさい帯血が得られる状況にある。最大の問題とされた生着不全もほぼ解決され、最終的な長期成績も骨髓移植に勝るとも劣らず、血縁HLA一致移植とも遜色ない経過が得られつつある。

さい帯血移植といえば「虎の門」とされるようになったが、実際に年間のさい帯血移植は100例で、血縁の20例、骨髓バンクの20例をはるかにしのいでいる。年齢も中央値が59歳なので、半数は60歳以上ということになり、82歳の方にさい帯血移植をした例もある。

世界のさい帯血移植例数を1994-2011年でみると、北米がほぼ7000例、ヨーロッパが6000例弱、それに対しアジアがほぼ9000例に達している。そのほとんどが日本であり、しかも11~12年における日米の施設別例数をみると、トップは虎の門病院内の204例で、上位20の中に日本の施設が13も入っている。

移植後に大量の免疫抑制剤を使用することによって、HLAが3座不一致までの移植を可能にする技術が世界的な話題となっている。HLAは親子であれば全て、兄弟姉妹でも4分の3の確率で3座以上一致するし、インフラを必要としないことから経費が安く済むなど、大きな注目を集めている。



(河北融研、毎年血液、2013)

iPS細胞と骨髓バンク

近藤忠一先生(京都大学医学部附属病院血液腫瘍内科)

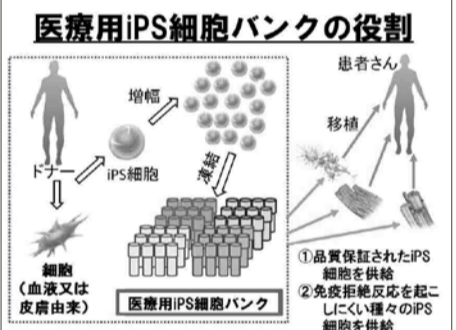


京都大学の山中伸弥教授らは2006年、マウス成熟皮膚線維芽細胞にわずか4つの遺伝子を導入することにより、ほぼ無限の増殖能とあらゆる組織への多分化能を持った人工多能性幹細胞(iPS細胞)を作製することに成功した。

翌年には同様の手法で、ヒト皮膚からiPS細胞の作製に成功した。iPS細胞から様々な細胞をつくり出すことができるため、多くの疾患の治療に利用できると考えられる。

ただ、一人の患者さんから作製するには多大な費用と時間がかかる。そこで、他人から作製したiPSを作製し、備蓄・保管するiPSバンクの整備が必要になるが、拒絶反応に関わるHLA(Human Leukocyte Antigen、ヒト白血球抗原)が異なることが問題になる。そこで拒絶反応を起こしにくい、HLAがホモ接合型であるiPS細胞ストックを樹立することを計画している。

そのためにはHLA情報が分かっているドナーの協力が重要であり、日本赤十字社、さい帯血バンク、骨髓バンクの協力が必要になる。また、京都大学では、がん細胞を特異的に殺すT細胞からiPS細胞を作製し、そのiPS細胞からT細胞を大量に分化誘導し、がん免疫療法の開発が行われているが、その際にもiPS細胞ストックの利用が重要になる。



心からのご寄付に感謝申し上げます

5月21日~6月20日(敬称略)

株式会社サカタのタネ	現金	300,327円
パワーバランスジャパン株式会社	現金	5,130円
株式会社ハローデイ	現金	990,000円
ミュージックフェスタ	現金	7,393円
株式会社公益社	現金	52,044円
中西 光太郎	現金	5,000円
黒田 多喜男	現金	10,000円
飛田 行康	現金	5,000円
匿名	現金	5,000円
●白血病患者支援基金		
株式会社クスリのアオキ	現金	1,136,335円
株式会社レディ薬局	現金	6,657円
嶋津 桂子	現金	8,000円
●佐藤さち子患者支援基金		
東京マリンロータリークラブ	現金	298,036円
公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構	現金	2,584円
嶋津 桂子	現金	8,000円
梅原 保	現金	20,000円
●志村大輔基金		
嶋津 桂子	現金	8,000円
●こうのとりのマリン基金		
嶋津 桂子	現金	8,000円

活動資金の援助をお願いします

銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
特定非営利活動法人
全国骨髓バンク推進連絡協議会

【おわび】第264号の本欄で、「梅原 保」様のお名前を「海原 保」と誤ってしまいました。深くおわび申し上げますとともに、今号に改めて掲載させていただきます。

「再生医療」をテーマにさい帯血とiPS細胞

東大医科研では、毎月最終水曜日に港区民をはじめ、一般を対象に「市民医療懇談会」を開催しており、6月26日(木)で47回となりました。ボランティア活動の参考にと案内をいただき、全国協議会関係者も参加しました。



造血細胞移植医療も広い意味での再生医療であり、さい帯血とiPS細胞医療による再生医療の進歩は血液疾患医療に新たな進展をもたらすことが期待される講演会でした。(講演の詳細は次号に)

骨髓バンクの最新情報をお知らせする

骨髓バンク NOW

(財団マンスリー-JMDP(6月13日発行)より抜粋)

◆日本骨髓バンクの現状(2014年5月末現在)				
	4月	5月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,443	2,315	445,854	613,444
患者登録者数	268	240	2,630	41,911
移植例数	108	102	—	16,942
■5月の区分別ドナー登録者数: 献血ルーム / 584人、献血併行型集団登録会 / 1,594人、集団登録会 / 80人、その他 / 57人				

注) 数値は速報値のため次月に訂正されることがあります。
平成24年7月より集計方法が変わりました。